

まえがき

前田 美樹

第 27 回関西フランス語教育研究会（ランコントル）は、3 月 29 日、30 日の両日、アンスティチュ・フランセ関西—大阪（旧大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ）にて開催され、141 名もの多数のご参加を得て、無事に終了することができました。

アトリエご担当のみなさま、ご参加のみなさま、ご協賛くださいました出版社のみなさま、ご協力本当にありがとうございました。スタッフ一同深く感謝いたしております。

今年のランコントルでは、「学習活動のデザイン」と「ジダンからラシーヌまで—どのような文化を教えるか—」というテーマのもとで 37 のアトリエと 1 つのアトリエ—コンフェランスがおこなわれました。またこのテーマ以外にも、iPad などのタブレット端末を活用したアトリエや、発音に関する発表など、さまざまテーマを含みながら、活発な議論が交わされました。

本年度の発表では、「異文化間教育」や「多言語」、「複言語」といったキーワードのもとで、世界のグローバル化を背景にしてフランス語教育をどのように捉え、いかに教育活動を行っていくのかということに注目したものが多く寄せられました。この時代のうねりのなかで、我々教員が日々の教育活動でいったい何ができるのかということ、各々が高い意識で授業に臨まれているのだということを確認し、フランス語教育の今後の発展に明るい光を見ました。

また昨年にも増して、*nouvelles technologies* を活用した授業報告が多数寄せられましたが、これらの技術を活用した授業づくりの無限の可能性と急速な進歩を感じずにいられませんでした。インターネットを利用した発表が増加するなか、会場でのインターネット接続に課題を残しましたが、この経験を活かし、今後もみなさまと活発な議論の場を創り出せるよう、努力していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第 27 号となる本論集において、多忙な時期にもかかわらず計 23 本の論考が寄せられましたことに感謝いたします。論考を執筆していただきましたみなさま、ありがとうございました。

最後になりましたが、快く会場をご提供下さったアンスティチュ・フランセ関西—大阪のみなさまにも厚くお礼を申し上げます。